

「国連婦人の10年」

(1976～85年)

最終年に向けて

■ 1年後に迫った「国連婦人の10年」最終年には この10年間の活動の成果の見直しと評価を行い 21世紀に向けて婦人の地位向上のための具体的な方策を検討するための世界会議の開催が予定されており 現在 世界各国で目標達成をめざし 一層積極的な活動が行われています

■ 国内では「婦人に関する施策の推進のための『国内行動計画』後期重点目標」に沿って様々な施策が展開されていますが なかでも「婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」批准に向けて必要な諸法制をはじめとする条件整備が現在の最大の課題となっています

婦人週間とは

昭和21年4月10日に 日本の婦人は はじめて国会議員を選挙し 政治に参加しました
この日を記念して 労働省では 昭和24年以来毎年4月10日に始まる1週間を“婦人週間”として婦人の地位を高めるための運動を主唱し
本年は 第36回を迎えます

本年は テーマを

「あらゆる分野への男女の共同参加—平等・発展・平和をめざす『国連婦人の10年』最終年に向けて—」

活動の重点を

「これまでの成果を踏まえ 残された課題の達成をめざす」

として 全国的に運動を展開します。

第36回

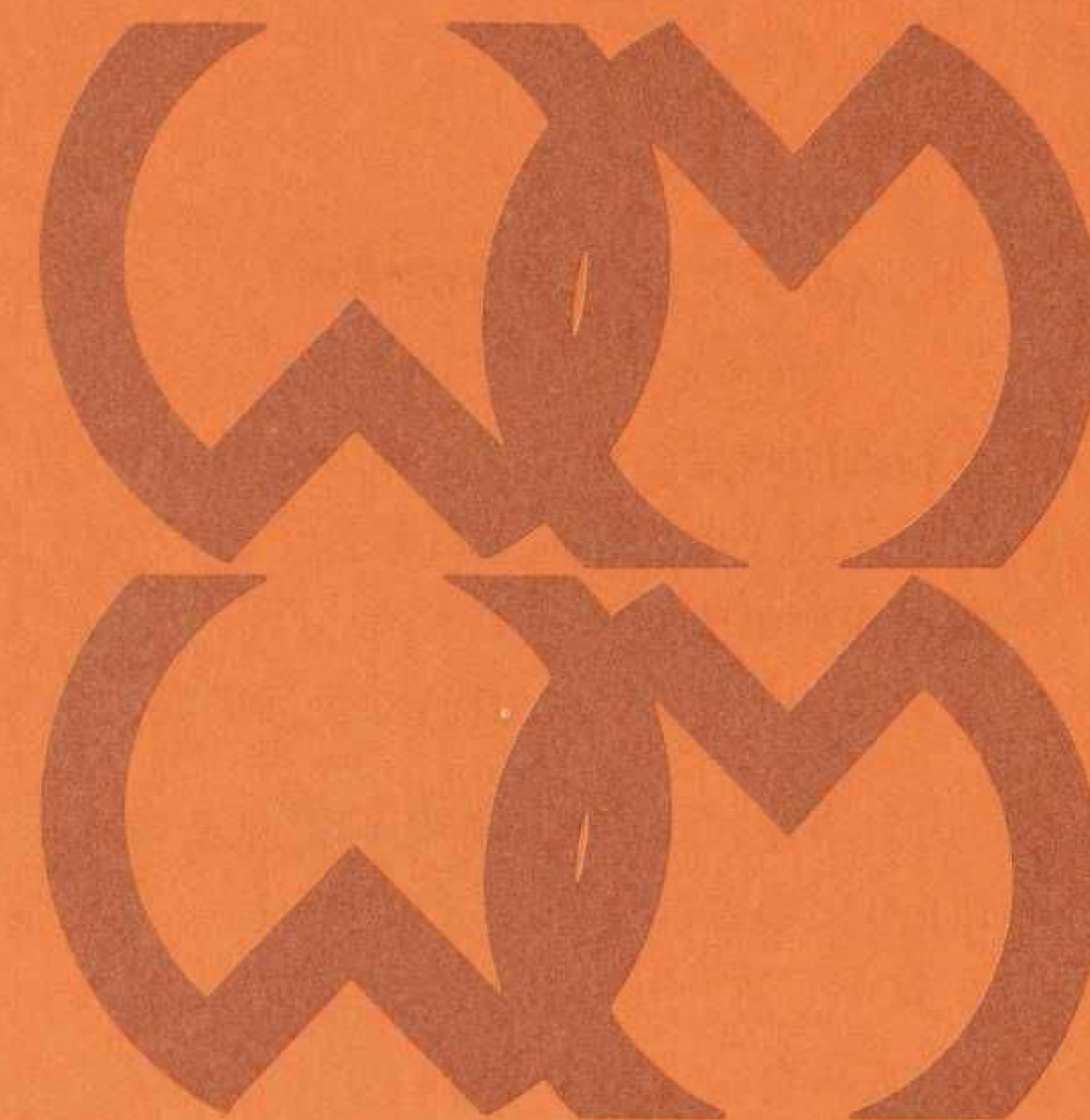


●御相談ごとは 下記婦人少年室や婦人少年室
協力員へ

あらゆる分野への

男女の共同参加

—「国連婦人の10年」最終年に向けて—



第36回婦人週間

4月10日～16日

労働省婦人少年局

来年は 平等・発展・平和をめざす

「国連婦人の10年」最終年です

国際婦人年を契機に 多彩な活動が展開され 個人の意識や社会の認識は大きく前進し 婦人の活動分野が広がりました

〈もっと政策決定の場へ〉

- 行政や政治の場で（各種の審議会委員 国・地方議会議員等）
- 職場や労働組合等で
- 町内会やPTAなど身近な生活の場で

■ 方針決定に当って 婦人の意見や経験が十分反映されているでしょうか

■ 婦人自身も現在の役割に安住しないで 身近な場から第一歩を踏み出し 経験を積んでいきましょう

■ 婦人の団体やグループも あらゆるレベルへの着実な参加をめざして学習し 人材を育てていきましょう

あらゆる分野への
男女の共同参加

■ あらゆる分野に 男女が平等に参加し 貢献してゆくことは
現在の家庭や社会の抱える様々な問題の解決のため また人間性豊かな社会を築くために必要です

■ 婦人の能力や適性に対する偏見や 男女の役割に対する固定的な考え方が根強く残っており 男女の活動の分野と内容を偏ったものとしています

■ 男性も女性も これまでの固定的な考え方 態度を積極的に変えて 職場・家庭・地域など社会のあらゆる分野においてともに生きる人生のパートナーとして 役割と責任を果たしていきましょう

個人で グループで これまでの活動の成果を見直し 残された課題の達成をめざして さらに積極的な活動を進めましょう

〈家庭や地域社会では〉

■ 暖かな家庭を築き 子供を健やかに育てるために

家庭と地域社会との結びつきを確かなものにするために

家庭や地域社会における男女の協調と参加が求められています

■ 男性は
家庭内において夫や父親としての役割を担い

また 地域社会の一員として 近隣との交流や連帯等にもっと目を向けましょう